

## マリモの発見者アントン・ザウター

中 沢 信 午

(山形大学理学部生物学教室)

## Anton Sauter.\*)

Eine biographische Skizze.

Am 6. April d. J. um 7 Uhr früh starb in Salzburg der k. k. Sanitätsrath und penf. Bezirksarzt Med. Dr. Anton Eleutherius Sauter im Alter von 81 Jahren an Entkräftung nach einer Pleuritis. Mit ihm ist einer der ältesten Botaniker der Gegenwart heimgegangen, der, treu

図 1. Richter (1881) によるザウター小伝の冒頭

マリモはオーストリア人ザウター (Anton E. Sauter, 1800—1881) によって 1823 年に発見された。しかしその原著論文では著者名がただ Dr. v. Sauter となっている。そのファーストネームが Anton で、ウィーンの医師であったことが木村有香博士所有の人名録で知られたものの、それ以上の事は私にわからないまま年月が過ぎた。その後ウィーン大学の医学史学者 Erna Lesky 博士に照会したところ、現地の「伝記辞典」(1874) および「ザルツブルク地方文化協会報」(1881) から 9 ページにわたるザウターの伝記をコピーしていただいたので、それを中心として、この人物を紹介してみたい。

ザウターは 1800 年 4 月 18 日にザルツブルク地方のグロスザール (Grossarl) に生まれた。父は地方の役人、また兄は詩人であった。少年時代にはヴェルフェンに家があり、そのころ植物の世界に心をひかれそめたという。この町の城のある丘に、毎年クリスマスローズ (*Helleborus*) の花が咲き、少年アントンはその美しい光景にみとれ、一生この花を愛した。7 歳の時ザルツブルグへ移住し、9 歳でギムナジウム (中高校) の勉強をはじめ、11 歳で神学校へ入学し、1819 年にグラーツへ移り、ここで哲学をまなび、まもなく医学を志し 1820—1826 年にわたり、ウィーン大学で医学を修めた。一方植物をよく研究し 1826 年には「ウィーン地域の植物地理学的記述」という 48 ページの論文を出している。

1823 年 8 月 15 日にザルツブルクの南方ピンツガウへ旅行し、この時にツェラー湖 (Zeller See) の流出口付近で多くのマリモを発見し、これをレーゲンスブルクから発行されている有名な雑誌 *Flora* 第 7 巻に論文とし

て発表した。

熱心な植物採集家で、また精密な観察が得意であったから、多くの新植物を発見した。それゆえ当時の著名学者とも交流があり、調査報告や論文を *Flora*, *Hedwigia* などによく発表した。かれの名前がついている植物も相当にある。マリモ *Cladophora sauteri* はもちろんのこと、カワノリ的一种 *Prasiola sauteri*, ラン藻的一种 *Nostoc sauteri*, ナズナ的一种 *Draba sauteri*, アザミ的一种 *Cirsium sauteri*, またゼゴケ的一种 *Sauteria* も彼の名を付けたものである。

ザウターの最も有名な論文は「ウィーン地域の植物地理学的記述」(1826) である。そのほか「ドイツの隠花植物」(1850)、「上部オーストリア山岳の高山植物」(1850)、その他があり、また 1879 年には「ザルツブルクのフロラ」を出版し、この中で高等植物 1504 種、セン類 549 種、タイ類 131 種、地衣類 643 種、藻類 300 種、菌類 500 種について述べている。また植物標本として 20,000 点、甲虫の標本 400 点、そのほか蝶類の標本も多数所有し、甲虫についてもいくつか新種を発見した。

1826 年 8 月 8 日に内科医師として採用され、ザルツブルクのヨハネス病院の医師となった。ついで 1828 年にはキッツビューエル、1829 年にはブレーゲンツの医師となり、1830 年には先きに彼がマリモを発見した湖のある町 Zell am See の国立地方病院の医官となった。そして、晩年にはザルツブルクへもどり、1881 年 4 月 6 日に国立病院において没した。それは、肋膜炎が治った予後の衰弱によるという。

## 参 考 文 献

- Sauter, Dr. v. : Bericht über einige botanische Exkursionen durch Oesterreich, Steiermark und Salzburg. *Flora* 7, 210—217 (1824)
- Wurzbach, C. von : Biologisches Lexikon des Kaiserthums Oesterreich. Hof-und Staatsdruckerei, Wien, 28, 288—290 (1874)
- Richter, R. von : Mittheilungen der Gesellschaft für Salzburger Landeskunde XXI. Vereinsjahr 1881. Salzburg. S. 227—234 (1881)